

## 鍵ひとつ

栗山政子

振花の離れ離れに雨が来る  
山法師咲いて朝のうすみどり  
えご散るやボトルの水の予備の予備  
緋鯉 悠々 雨脚の見え始む  
人声の真つ只中へ沙羅こぼる  
どこがひらくか立秋の鍵ひとつ  
新涼や山門くぐるとき木の香  
ひぐらしのこゑ近くなる遠くなる  
水の面の雲の乾きて秋はじめ  
青空に潜む星座や鳥渡る